

平成22年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800678	事業の開始年月日	平成16年8月1日
		指定年月日	平成16年8月1日
法人名	医療法人 活人会		
事業所名	高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう		
所在地	( 224-0034 ) 横浜市都筑区勝田町651番地		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成22年10月3日	評価結果 市町村受理日	平成23年2月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアマネジメントの取り組みにおいて、アセスメントやケアプラン作成・モニタリングの際に、ご家族(参加できる方は入居者自身)に積極的に参加していただき、入居者の現状と一緒に把握しています。このことにより、現在の入居者ご本人の生活における希望や意欲・可能性・課題などに対して一緒に考えたり、支え合う体制を心がけています。入居者の生活を支えるのは、スタッフだけではなく、ご家族や入居者同士の協力が不可欠であることを大切にし、また入居者より様々なこと教えていただいたり学ぶ機会といった支えられている部分も多くあります。お互いが支え合い楽しく暮らしているのが、「横浜ゆうゆう」です。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成22年10月18日	評価機関 評価決定日	平成23年1月20日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の概要】</b> <p>この事業所は横浜市中区都筑区の閑静な住宅地にあり、敷地内はゆとりがある。庭は芝生で、梅や夏みかんの木があり収穫を楽しんでいる。また、季節の花が植えられ季節感のある癒しの環境に配慮している。</p> <p>建物は木造2階建のバリアフリー構造で、各階に1ユニットずつ配置されている。1階と2階の移動は階段とエレベーターが利用できる。各フロアの食堂など共有スペースは日当たりが良く、明るく快適である。2階のベランダからは非常階段までぐるりと一周できるようになっている。近くには同一法人の介護老人保健施設と水野クリニックがある。</p> <p>職員は、理念を日々の実践の中で共有し利用者が安心してその人らしく暮らせるように利用者の立場に立って支援している。</p>
<b>【医療サービスの充実】</b> <p>協力医療機関の水野クリニック、山本記念病院、小泉歯科があり、精神科の協力医師がいる。同一法人の水野クリニックには24時間連絡ができる体制があり、月2回の往診が実施されている。また、希望する方は、これまでのかかりつけ医に引き続き受診している。重度化や看取りについては入居前に説明し、必要が生じたときに、「急変時における対応についての同意書」と「終末期生活における対応についての同意書」を作成している。</p>

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう
ユニット名	やまと

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時より地域に根付いたグループホーム運営を心がけており、近所やボランティアの方々とのお付き合い、行政との積極的な連携をおこなっている。	「人間性の尊重、個別性の重視、高齢者の自立とその可能性への信頼、自己決定の尊重」を理念とし、管理者と職員は開所時から日々の実践の中で理念を振り返り共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、年中行事に積極的に参加している。また、近所の方々との交流も年々増えてきており、ボランティアを継続して行われている方もいる。	町内会に加入しており町内会行事や敬老会に参加している。地域の高齢者とも顔なじみができ散歩のときに挨拶を交わしている。地域の店に買い物に行くなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	都筑区にある認知症サポート連絡会の会員として、認知症に関する普及・啓発に積極的に努めている。また、運営推進会議でも様々な取り組みを報告し、地域へ発信する努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方より豊富なアイデアをいただき、自事業所のサービスに反映したり、地域への認知症の普及啓発へ繋げたりしている。	運営推進会議は本年度6回開催する予定で、すでに3回開催している。運営報告を行い委員からの意見を参考にしている。欠席した委員には会議録を郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や認知症サポート連絡会などで密に連携を取り合い、事業所だけでなく地域単位で認知症に関するさまざまな取り組みをおこなっている。	都筑区や関係機関と共に「認知症サポート連絡会」を設置し、担当職員とは運営委員会や連絡会で連携をとっている。認知症のミニフォーラムや出前講座の講師をし協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の介護や会議などで、常に理念に立ち返り、身体拘束を実施しない取り組みをおこなっている。	玄関の施錠はしていない。安全のため門扉は電子ロックにしている。緊急やむを得ない場合には「身体拘束に関する説明書」をもとに家族に説明する体制が整えられている。現在は身体拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に積極的に参加したり、内部ではスタッフ会議などで常に虐待に繋がらないような話し合いをもっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理念にうたっている通り、個人の権利を常に大切にしながら、スタッフ会議で話し合いを持ち、ケアに反映している。定期的に研修会にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前面接の際・内容の改定の際には、必ず説明し、対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者より日常で様々な意見などについて迅速に対応したり、運営推進会議にも参加していただいている。ご家族には面会時・家族とのカンファレンスの際などに意見を伺い、運営に反映している。	運営推進会議や面会時、家族カンファレンスで希望・意見を聞いている。欠席者には郵送や電話で確認している。意見・要望は職員会議で検討し運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等の場で多くの意見を聞く機会を作っている。今年度よりグループホーム経営会議を実施。	月2回の職員会議、月1回の計画作成担当者会議を開いて職員の意見や提案を聞いている。また、本年度は7月から同一法人のグループホーム管理者や法人本部の事務長が参加する「グループホーム経営会議」を開催して、意見や提案を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の年次目標に向けての日々の勤務態度、合同職員会議などを通じて把握している。福利厚生などにも力を入れている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には積極的に参加し、研修を通して学んだことを現場に活かして頂けるよう期待している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	行政との連携や横浜グループホーム連絡会などに参加する機会を設けており、地域における同業者などとの良好な関係性の構築に繋げている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面接をおこない、入居後も細かい観察などよりご本人の状況をしっかり把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面接をおこない、ご家族の意向などもしっかり伺うように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面接と入居時の状態を踏まえ、早期に生活に慣れていただく事を主眼にケアを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の意欲や可能性などを信頼し、多くの事を学ばせてくれているという敬いの気持ちを忘れないように対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と面会時や家族カンファレンス時など多くのコミュニケーションをとるようにして、利用者を中心として支え合う体制を心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会などを積極的に推進、現実的にも多くのご家族が面会に来られたり、外出・外泊をされている。	昔の自分の家やお墓参りに家族と一緒に出かけたり外泊している。入居前から利用している美容院に継続して行く方もおり、馴染みの関係継続の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者が体調の悪い時に声をかけられたり、自発的にトランプを皆で楽しまれたりする環境ができています。また、スタッフもグルーピングを意識して対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もボランティアとしてお手伝いをしてくれる関係性が構築されていたり、新規入居希望者の相談などを受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを基にスタッフ間・ご本人・ご家族で話し合いを持ち、本人本位の視点のケアプラン作成を心掛けて対応している。	アセスメントやモニタリングで意向を把握している。意向を示せない方は日々の観察の中で表情などを把握したり、家族カンファレンスで聞いたりして本人本位の対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族よりバックグラウンドシートを記してもらい、それを基に、継続的なケアを心がけている。入居前に介護サービスを利用されていた方はケアマネに情報提供依頼をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネジメントの流れを大切にしながら、日々の暮らしを支えながら、状態の把握にも努め、新しい発見などを次につなげるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジメントの流れの中で本人や家族との話し合い、スタッフ同士との話し合いの機会を作っており、意見を共有した中でのケアプランを作成している。	入居者の担当職員がおりモニタリング・家族カンファレンスに参加し職員間で話し合い意見を共有して計画に反映している。計画は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に力を入れ、誰が見ても状態が把握できるようになっている。また、ケアプランの見直しの際にも大変有効的である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスだけでなく、様々な社会資源を紹介したり、多世代交流の時間を大切にしたり常に工夫をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の年中行事に積極的に参加して楽しまれたり、民生委員やボランティアさんの多くの協力を得て、充実した時間をすごせるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より主治医に関しての確認をとっており、ご本人やご家族の希望に沿いながら主治医へかかっている。日頃のケアの気づきなどの情報提供などを随時おこなっている。	希望に合わせて、入居前からのかかりつけ医に受診している。家族が対応できないときには職員が付き添っている。水野クリニックからは月2回の往診があり、日常の様子や変化を伝えている。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制で契約している看護師と日頃より密な連携を持ち対応している。また、24時間のオンコール体制もとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を提出し、入居時の状態を把握していただくよう配慮している。また、入院後は定期的に病状の説明を依頼したり、面会を密におこない、状態を把握し早期の退院につながるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前より条件が整えば看取りまでおこなうことを説明しており、終末期においては主治医を含め方向性を定めるようにしている。	入居時に重度化や終末期について説明し、条件が整えば看取りを実施している。必要が生じたときに「急変時における対応についての同意書」と「終末期生活における対応についての同意書」を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の機会を作ったり、マニュアルなどを作成し対応している。年に一度なので、もう少し回数を増やしていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度初めて夜間想定避難訓練を実施。消防署・近隣の方・運営推進会議委員も参加していただき、入居者の状態像、ハード・ソフト面を認識していただいた。	夜間を想定した防災訓練を昼間の時間帯に実施した。訓練には、近隣の人や民生委員にも参加してもらった。地域の防災訓練には参加できなかった。2階のベランダから非常階段までぐりぐりと一周できる構造になっており、避難経路が確保されている。	近隣住民の協力環境ができているので、町内会主催の防災訓練に参加したり、地震を想定した事業所の防災訓練に取り組むなど、さらなる安全対策を期待する。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、また言葉による虐待などにも配慮しながら対応をおこなっている。	年間目標として「コミュニケーション技術の向上」に取り組み、一人ひとりを尊重した声掛けをし、配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を伺い、出来るだけ希望に沿えるよう取り組んでいる。また、アセスメントなど「できること・わかること」も把握し、意欲を引き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランを基に、個々人の生活リズムを大切にしながら充実した生活を送れるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容を意識し、また整容する効果で、利用者の方が生き生きとされることを大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援	入居前より嗜好調査をおこない、入居後も観察をしたり、利用者には伺いなが	1階はメニューを職員が考え、食材は配達を利用している。2階はメ	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事配膳に当たっては、利用者の嗜好やアレルギーから配慮している。調理などが好きな方は積極的に台所に入られている。	お好みなメニューと配達食材を利用しているが、週に1日は「お好みメニュー」の日とし、入居者の希望にあわせた献立を作り、その日は食材を買いに行っている。できる方は調理や片付けを手伝っている。誕生日メニューは個人の好きなものを用意している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日チェックしている。栄養バランスは法人の管理栄養士のアドバイスを受けている。水分摂取量はチェックが必要な方を対象に実施し、健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に応じた支援をおこなったり、訪問歯科のアドバイスなども受けながら対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を用い、個々人の状態を把握して出来るだけ失敗による不快や自尊心低下の防止・生活保持に努めている。	個々人の排泄パターンを把握して声掛けをしたり、時間を見てトイレ誘導をし、排泄の失敗を減らすように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動など便秘に対して有用で生活の中で工夫できる事を多く取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとり、のんびりと入浴して頂く事を心掛けている。曜日・時間帯の配慮まではなかなか出来ていないのが現状である。	週に2~3回、午後の時間帯に一人ひとりに合わせた入浴介助をしている。夏など、希望する方はシャワーを浴びている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にホットミルクを飲んで頂き安眠を促す工夫をしたりしている。個室での就寝が不安な方はリビングで休んで頂くなども実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用は、医療従事者に判断をあおぎ、観察に努めている。薬の内容や服用後の観察は適切におこなえるよう対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意欲の向上につながる取り組みを日々おこなっている。利用者主導でトランプをされたり、切絵や音楽療法等で入居者とスタッフが一体で楽しめるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り自由に出かけられる環境を整備している。また、ご家族の自発的な協力も多く見られている。	晴れていれば毎日近所へ散歩している。月1回、車でレストランや公園に出かけたり、週1回、車で買い物に出かけている。町内会行事や保育園行事、落語会などに参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持などは能力に応じて行っている。また、使用時も同様。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えたり、手紙のやりとりも自由にとれるような対応になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖色系の電球を用い、暖かみを装っている。また、リビングの壁に季節の切絵などを飾ったりしている。声・足音・テレビの音量など「不快」を「快」にすることを常に意識して対応している。	廊下は広く車椅子が交差できる。廊下の途中に談話コーナーがありくつろげる環境を作っている。居間兼食堂は全面南向きで明るく、床の間があり季節の飾りつけをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	さりげなくソファをおいたり、リビングより死角になる場所を何か所か設け、活用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、使い慣れたもの・愛着のあるものを持ってきていただき、且つ混乱しない事が「家」として重要な要素であることを説明しながら、工夫している。	居室には、使いなれたタンスや机、テレビや仏壇などがある。壁紙は各部屋で違い、一人ひとりに合わせ居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	極端な施錠などは一切行わず、能力に応じた安全配慮を行っている。また、身体の障害に適したバリアフリー構造・場所が分からない方に対し目印をしたりの工夫を行っている。		

平成22年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800678	事業の開始年月日	平成16年8月1日	
		指定年月日	平成16年8月1日	
法人名	医療法人 活人会			
事業所名	高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう			
所在地	( 224-0034 ) 横浜市都筑区勝田町651番地			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18名	
自己評価作成日	平成22年10月3日	評価結果 市町村受理日		
		ユニット数	2ユニット	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアマネジメントの取り組みにおいて、アセスメントやケアプラン作成・モニタリングの際に、ご家族(参加できる方は入居者自身)に積極的に参加していただき、入居者の現状と一緒に把握しています。このことにより、現在の入居者ご本人の生活における希望や意欲・可能性・課題などに対して一緒に考えたり、支え合う体制を心がけています。入居者の生活を支えるのは、スタッフだけではなく、ご家族や入居者同士の協力が不可欠であることを大切に、また入居者より様々なこと教えていただいたり学ぶ機会といった支えられている部分も多くあります。お互いが支え合い楽しく暮らしているのが、「横浜ゆうゆう」です。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成22年10月18日	評価機関 評価決定日	平成23年1月20日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の概要】**  
この事業所は横浜市中区都筑区の閑静な住宅地にあり、敷地内はゆとりがある。庭は芝生で、梅や夏みかんの木があり収穫を楽しんでいる。また、季節の花が植えられ季節感のある癒しの環境に配慮している。  
建物は木造2階建のバリアフリー構造で、各階に1ユニットずつ配置されている。1階と2階の移動は階段とエレベーターが利用できる。各フロアの食堂など共有スペースは日当たりが良く、明るく快適である。2階のベランダからは非常階段までぐるりと一周できるようになっている。近くには同一法人の介護老人保健施設と水野クリニックがある。  
職員は、理念を日々の実践の中で共有し利用者が安心してその人らしく暮らせるように利用者の立場に立って支援している。

**【医療サービスの充実】**  
協力医療機関の水野クリニック、山本記念病院、小泉歯科があり、精神科の協力医師がいる。同一法人の水野クリニックには24時間連絡ができる体制があり、月2回の往診が実施されている。また、希望する方は、これまでのかかりつけ医に引き継ぎ受診している。重度化や看取りについては入居前に説明し、必要が生じたときに、「急変時における対応についての同意書」と「終末期生活における対応についての同意書」を作成している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	高齢者グループホーム 横浜ゆうゆう
ユニット名	やまと

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時より地域に根付いたグループホーム運営を心がけており、近所やボランティアの方々とのお付き合い、行政との積極的な連携をおこなっている。	「人間性の尊重、個別性の重視、高齢者の自立とその可能性への信頼、自己決定の尊重」を理念とし、管理者と職員は開所時から日々の実践の中で理念を振り返り共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、年中行事に積極的に参加している。また、近所の方々との交流も年々増えてきており、ボランティアを継続して行われている方もいる。	町内会に加入しており町内会行事や敬老会に参加している。地域の高齢者とも顔なじみができ散歩のときに挨拶を交わしている。地域の店に買い物に行くなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	都筑区にある認知症サポート連絡会の会員として、認知症に関する普及・啓発に積極的に努めている。また、運営推進会議でも様々な取り組みを報告し、地域へ発信する努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方より豊富なアイデアをいただき、自事業所のサービスに反映したり、地域への認知症の普及啓発へ繋げたりしている。	運営推進会議は本年度6回開催する予定で、すでに3回開催している。運営報告を行い委員からの意見を参考にしている。欠席した委員には会議録を郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や認知症サポート連絡会などで密に連携を取り合い、事業所だけでなく地域単位で認知症に関するさまざまな取り組みをおこなっている。	都筑区や関係機関と共に「認知症サポート連絡会」を設置し、担当職員とは運営委員会や連絡会で連携をとっている。認知症のミニフォーラムや出前講座の講師をし協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の介護や会議などで、常に理念に立ち返り、身体拘束を実施しない取り組みをおこなっている。	玄関の施錠はしていない。安全のため門扉は電子ロックにしている。緊急やむを得ない場合には「身体拘束に関する説明書」をもとに家族に説明する体制が整えられている。現在は身体拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に積極的に参加したり、内部ではスタッフ会議などで常に虐待に繋がらないような話し合いをもっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理念にうたっている通り、個人の権利を常に大切にしながら、スタッフ会議で話し合いを持ち、ケアに反映している。定期的に研修会にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前面接の際・内容の改定の際には、必ず説明し、対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者より日常で様々な意見などについて迅速に対応したり、運営推進会議にも参加していただいている。ご家族は面会時・家族とのカンファレンスの際などに意見を伺い、運営に反映している。	運営推進会議や面会時、家族カンファレンスで希望・意見を聞いている。欠席者には郵送や電話で確認している。意見・要望は職員会議で検討し運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等の場で多くの意見を聞く機会を作っている。今年度よりグループホーム経営会議を実施。	月2回の職員会議、月1回の計画作成担当者会議を開いて職員の意見や提案を聞いている。また、本年度は7月から同一法人のグループホーム管理者や法人本部の事務長が参加する「グループホーム経営会議」を開催して、意見や提案を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の年次目標に向けての日々の勤務態度、合同職員会議などを通じて把握している。福利厚生などにも力を入れている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には積極的に参加し、研修を通して学んだことを現場に活かして頂けるよう期待している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	行政との連携や横浜グループホーム連絡会などに参加する機会を設けており、地域における同業者などとの良好な関係性の構築に繋げている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面接をおこない、入居後も細かい観察などよりご本人の状況をしっかり把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面接をおこない、ご家族の意向などもしっかり伺うように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面接と入居時の状態を踏まえ、早期に生活に慣れていただく事を主眼にケアを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の意欲や可能性などを信頼し、多くの事を学ばせてくれているという敬いの気持ちを忘れないように対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と面会時や家族カンファレンス時など多くのコミュニケーションをとるようにして、利用者を中心として支え合う体制を心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会などを積極的に推進、現実的にも多くのご家族が面会に来られたり、外出・外泊をされている。	昔の自分の家やお墓参りに家族と一緒に出かけたり外泊している。入居前から利用している美容院に継続して行く方もおり、馴染みの関係継続の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者が体調の悪い時に声をかけられたり、自発的にトランプを皆で楽しまれたりする環境ができている。また、スタッフもグルーピングを意識して対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もボランティアとしてお手伝いをしてくれる関係性が構築されていたり、新規入居希望者の相談などを受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを基にスタッフ間・ご本人・ご家族で話し合いを持ち、本人本位の視点のケアプラン作成を心掛けて対応している。	アセスメントやモニタリングで意向を把握している。意向を示せない方は日々の観察の中で表情などを把握したり、家族カンファレンスで聞いたりして本人本位の対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族よりバックグラウンドシートを記してもらい、それを基に、継続的なケアを心がけている。入居前に介護サービスを利用されていた方はケアマネに情報提供依頼をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネジメントの流れを大切にしながら、日々の暮らしを支えながら、状態の把握にも努め、新しい発見などを次につなげるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジメントの流れの中で本人や家族との話し合い、スタッフ同士との話し合いの機会を作っており、意見を共有した中でのケアプランを作成している。	入居者の担当職員がおりモニタリング・家族カンファレンスに参加し職員間で話し合い意見を共有して計画に反映している。計画は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に力を入れ、誰が見ても状態が把握できるようになっている。また、ケアプランの見直しの際にも大変有効的である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスだけでなく、様々な社会資源を紹介したり、多世代交流の時間を大切にしたり常に工夫をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の年中行事に積極的に参加して楽しまれたり、民生委員やボランティアさんの多くの協力を得て、充実した時間をすごせるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より主治医に関しての確認をとっており、ご本人やご家族の希望に沿いながら主治医へかかっている。日頃のケアの気づきなどの情報提供などを随時おこなっている。	希望に合わせて、入居前からのかかりつけ医に受診している。家族が対応できないときには職員が付き添っている。水野クリニックからは月2回の往診があり、日常の様子や変化を伝えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制で契約している看護師と日頃より密な連携を持ち対応している。また、24時間のオンコール体制もとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を提出し、入居時の状態を把握していただくよう配慮している。また、入院後は定期的に病状の説明を依頼したり、面会を密におこない、状態を把握し早期の退院につながるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前より条件が整えば看取りまでおこなうことを説明しており、終末期においては主治医を含め方向性を定めるようにしている。	入居時に重度化や終末期について説明し、条件が整えば看取りを実施している。必要が生じたときに「急変時における対応についての同意書」と「終末期生活における対応についての同意書」を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の機会を作ったり、マニュアルなどを作成し対応している。年に一度なので、もう少し回数を増やしていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度初めて夜間想定避難訓練を実施。消防署・近隣の方・運営推進会議委員も参加していただき、入居者の状態像、ハード・ソフト面を認識していただいた。	夜間を想定した防災訓練を昼間の時間帯に実施した。訓練には、近隣の人や民生委員にも参加してもらった。地域の防災訓練には参加できなかった。2階のベランダから非常階段までぐりぐりと一周できる構造になっており、避難経路が確保されている。	近隣住民の協力環境ができているので、町内会主催の防災訓練に参加したり、地震を想定した事業所の防災訓練に取り組むなど、さらなる安全対策を期待する。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、また言葉による虐待などにも配慮しながら対応をおこなっている。	年間目標として「コミュニケーション技術の向上」に取り組み、一人ひとりを尊重した声掛けをし、配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を伺い、出来るだけ希望に沿えるよう取り組んでいる。また、アセスメントなど「できること・わかること」も把握し、意欲を引き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランを基に、個々人の生活リズムを大切にしながら充実した生活を送れるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容を意識し、また整容する効果で、利用者の方が生き生きとされることを大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援	入居前より嗜好調査をおこない、入居後も観察をしたり、利用者には伺いなが	1階はメニューを職員が考え、食材は配達を利用している。2階はメ	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や片付けをしている。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や片付けをしているが、週に1日は「お好みメニュー」の日とし、入居者の希望にあわせた献立を作り、その日は食材を買いに行っている。できる方は調理や片付けを手伝っている。誕生日メニューは個人の好きなものを用意している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日チェックしている。栄養バランスは法人の管理栄養士のアドバイスを受けている。水分摂取量はチェックが必要な方を対象に実施し、健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に応じた支援をおこなったり、訪問歯科のアドバイスなども受けながら対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を用い、個々人の状態を把握して出来るだけ失敗による不快や自尊心低下の防止・生活保持に努めている。	個々人の排泄パターンを把握して声掛けをしたり、時間を見てトイレ誘導をし、排泄の失敗を減らすように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動など便秘に対して有用で生活の中で工夫できる事を多く取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとり、のんびりと入浴して頂く事を心掛けている。曜日・時間帯の配慮まではなかなか出来ていないのが現状である。	週に2~3回、午後の時間帯に一人ひとりに合わせた入浴介助をしている。夏など、希望する方はシャワーを浴びている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にホットミルクを飲んで頂き安眠を促す工夫をしたりしている。個室での就寝が不安な方はリビングで休んで頂くなども実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用は、医療従事者に判断をあおぎ、観察に努めている。薬の内容や服用後の観察は適切におこなえるよう対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意欲の向上につながる取り組みを日々おこなっている。利用者主導でトランプをされたり、切絵や音楽療法等で入居者とスタッフが一体で楽しめるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り自由に出かけられる環境を整備している。また、ご家族の自発的な協力も多く見られている。	晴れていれば毎日近所へ散歩している。月1回、車でレストランや公園に出かけたり、週1回、車で買い物に出かけている。町内会行事や保育園行事、落語会などに参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持などは能力に応じて行っている。また、使用時も同様。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えたり、手紙のやりとりも自由にとれるような対応になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖色系の電球を用い、暖かみを装っている。また、リビングの壁に季節の切絵などを飾ったりしている。声・足音・テレビの音量など「不快」を「快」にすることを常に意識して対応している。	廊下は広く車椅子が交差できる。廊下の途中に談話コーナーがありくつろげる環境を作っている。居間兼食堂は全面南向きで明るく、床の間があり季節の飾りつけをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	さりげなくソファをおいたり、リビングより死角になる場所を何か所か設け、活用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、使い慣れたもの・愛着のあるものを持ってきていただき、且つ混乱しない事が「家」として重要な要素であることを説明しながら、工夫している。	居室には、使いなれたタンスや机、テレビや仏壇などがある。壁紙は各部屋で違い、一人ひとりに合わせ居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	極端な施錠などは一切行わず、能力に応じた安全配慮を行っている。また、身体の障害に適したバリアフリー構造・場所が分からない方に対し目印をしたりの工夫を行っている。		